

教科等研究会（中学校美術部会）  
平成30年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

どの子も『見つめ・感じ・つくりだす』授業づくり

2 研究経過

第1回	第2回	第3回	第4回
期日 5月24日(木) 人数 35人 場所 広安西小学校	期日 8月20日(月) 場所 広安西小学校 内容 実技研修会	期日 10月25日(木) 場所 乙女小学校 授業者 永田ムツミ教諭	期日 1月24日(木) 場所 甲佐中学校 授業者 嘉古田剣吾教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

今年度はどの子も『見つめ・感じ・つくりだす』授業づくりという研究テーマのもと、研究、実践、授業改善等を行った。

① 第1回教科等研究会

組織づくりを行い、学年部会で組織を構成し、研究授業の担当学年等を決めていった。

② 第2回教科等研究会

午前の授業づくりでは、テーマをもとに、各学校の授業で悩みや困る場面をあげていった。その中で、アイデアの発想の場面でのつまずきや、発想が浮かばない生徒への手だてなどを話し合った。その結果、失敗を怖がって進まないことや、自分で選択することが苦手な生徒が見られることがわかり、研究授業では、発想の力を伸ばすことを焦点として授業をつくることに決めた。

午後からは実技研修として、御船窯の津金日人詩氏を招いて陶芸を行った。菊練りの実演や作り方の基本、接着の方法など教わりながら、個人が制作したいものをそれぞれに作っていった。日頃自分が作品を作る機会があまりとれない現状があるので、作りながら、楽しさや、子どもたちが取組むときに気をつけることなど考えながら活動することができた。



菊練りの体験の様子



会員が作った作品

③ 第3回教科等研究会

乙女小学校の第5学年で授業研究会を行った。「ダンボールで、試して、つくって」という題材で、段ボールの家をつくり、クラスで街を作り上げるというものであった。段ボールの加工の仕方、加飾の紹介、接着の工夫など見本がわかりやすく提示されていた。そのため、子どもたちが、自分が作りたいものを実現するためにはどれを使うかなど、熱中して取り組むことができ、どの子も『見つめ・感じ・つくりだす』授業づくりができていた。

④ 第4回教科等研究会

甲佐中学校の第1学年で授業研究会を行った。「切り絵の和風スタンドグラスをつくろう」という題材で、季節を表現する模様や文様をデザインし、スタンドグラスをつくるものである。今回はICTを活用し、タブレットを個人で持って、発想を引き出すために、写真を撮ったデザインにソフトを使って着色する授業であった。 ※詳細は、4実践事例にて紹介

(2) 成果と課題

- 第3回の教科等研究会では、授業の検討を行うと同時に、日頃の授業についての悩みや、工夫点など交流することができ、有意義であった。
- 実技研修で陶芸を行うことで、作る側の気持ちや楽しさを味わうことができた。自分が教えやすいものを行うだけでなく、子どもたちが楽しみながら熱中して取組める教材を考えるのに良い機会となった。
- 小中合同で行うことで、小学校からは工夫や手だてを学び、中学校からは、知識や技能の情報を提供することができた。
- ICTの活用と美術でのICT活用のメリット、デメリットについて話し合うことができたので、ねらいを持った利用の重要性について考えることができた。
- 授業研究会を有意義なものにするために、今後も課題を設定した話し合いや、意見交流を行っていく必要がある。
- 新学習指導要領について、個人でしっかりと読んで理解していくことも大事だが、部会としても内容に触れながら、今後の研究をどのように行っていくのかを考えていかなければならない。

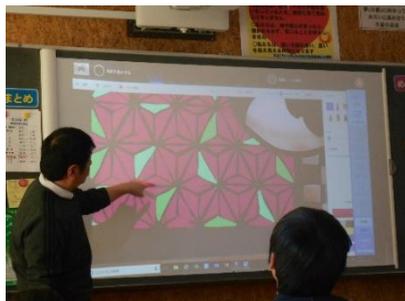
## 4 実践事例

### (1) 授業の概要

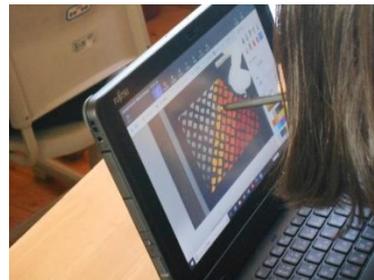
第1学年「切り絵の和風ステンドグラスをつくろう」では、日本の伝統的な文様や模様を使い、季節に合わせたデザインを作る中で、伝統に触れ、色やデザイン、構成のパターンなどについて学習するものである。デザインを作り、画用紙を2枚重ねて切り抜き、中に薄手の色紙をはさんで仕上げる。今回の授業では、切り取った図案をタブレットで撮影し、ソフトを使ってタブレットの中で塗る作業をして複数の作品を作り、比較することでより、自分の描いたイメージにちかひものを探していく内容である。同時に作った作品を見ることができ、黒板にも全員の作品を投影することができる。



切り絵の作品



生徒作品の紹介と説明の場面



タブレットで色を入れる作業の様子

### 【授業研究会から】

#### ① 自評

今回の授業は、ICT活用をメインにした授業を提案した。生徒の実態として、意欲は高いが、失敗したくない気持ちから、制作が進まない実態があった。そこで発想を広げるためにどうしたらよいかを考えた。ICT活用の中で、単に画像や映像を探して選んだだけでは自分の発想ということにはならないと考え、生活経験の中から感じたことを根拠に色選びをするようにした。自分が見た、聞いた、感じた感覚を大切にするように指導した。

#### ② 質疑

◇自分が選んだ月のイメージを広げるための指導について教えてほしい。

- ・四季だとぼんやりとしたイメージになりやすいので、月に絞って画像を探した。北海道のラベンダー畑を例に、自分の体験や経験にちなんだものにするように話をした。

◇古典の柄が多かったが、どのように決めたのか。

- ・文様や模様など自然からできていることをおさえた。装飾古墳や日本の伝統模様を紹介した。

◇使用した材料について教えてほしい。

- ・黒い枠は色画用紙の黒を使用した。中の色紙は超薄おりがみを使用した。薄くて色が透けるので、重ねると違う色を作ることができる。手に入りやすいものを使用するようにしている。

#### ② 協議

- ・生徒の一人学びが良くできていて、1時間しっかりと集中ができていてよかった。
- ・ねらいを持って課題に合ったICT活用ができていた授業で参考になった。
- ・タブレットの様々な使い方を知ることができたし、学校で日頃から活用されていて、生徒も

慣れていた。

- ・協議の中でICTのメリット、デメリットを話し合えた。ねらいを持って、効果的に使うことが必要だと思う。

(改善点)

- ・班やグループでの学び合いの時間を設定してもよかった。
- ・評価の基準を指導案に載せると授業の達成度がわかる。
- ・次に実際に色紙を挟む過程で、タブレットとのギャップに戸惑わないように指導が必要である。
- ・教員がICT活用のねらいや、注意すべき点を把握して効果的な活用をしていくことの重要性を感じた。

## (2) 学習指導案

**題材名** 切り絵の和風ステンドグラスをつくろう

**授業者** 嘉古田 剣吾 (甲佐中学校)

**場 所** 1年3組教室

### 題材について

本題材では、日本の伝統的な紋様を活かした和風ステンドグラスを制作する。その過程で、伝統紋様についての知識を深めるため、形の簡易化の妙やデザインの遊び心などを学習する。また、紙を加工する過程を通して、紙が持つ性質について理解させたい。

デザインナイフ等の道具についても、正しく使うことができるように指導する。

### 主なUDの視点

- ・作業に見通しを持って配色をすることができるようにタブレットを使って配色案を考える。(ICTの活用)

### 題材の目標

関

- ・切り絵の制作に意欲的に取り組むことができる。

発

- ・和を感じる配色について根拠を明らかにして説明をすることができる。
- ・季節感のある紋様の作成・活用ができる。

技

- ・連続した紋様を美しく描くことができる。
- ・紙の性質を活かし、台紙を切ることができる。

鑑

- ・作品の良さを理由を明確にして他者と伝え合うことができる。

### 指導計画 (8時間)

- ・装飾古墳の図柄から、文様に込められたものの正体を探る。
- ・日本独自の文様・紋様・家紋について、発想の豊かさを感じながら鑑賞する。(1時間)

- ・表現したい季節を月で分けて決め、背景のアイデアを練る。
- ・自分の表現意図に合わせて背景に紋様を描き、中心部分の紋をデザインする。(2時間)

- ・アイデアシートと一緒に台紙を切る。
- ・表現意図にあった配色計画を立てる(本時)
- ・色紙を台紙に挟んで、接着する。(4時間)

- ・作品を相互鑑賞し、お互いのよさや工夫から、自分の作品を振り返る。(1時間)

## 本時の目標

### 目指す子どもの姿

季節感のある配色を選んで、自分の表現にあった配色計画をたてることができる。

## 児童生徒の実態

美術の授業への意欲は高いが失敗を恐れ、制作への意欲低下が著しい生徒がいる。

そのために授業者は・・・

- ・ 課題解決のために生徒が課題に気づき、解決したいと思える工夫をした中心発問を設定する。
- ・ 考えたことを共有化し、学びを広げ・深めるために ICT の活用を図る。

## 学習活動

前時までの復習をし、今日の学習内容を確認合う。(5分)

配色計画を立てるため、タブレットの使い方を知る。(10分)

タブレットの中のペイント3Dを使って、配色パターンを試行し、スクリーンショットで保存する。それを比較したりしながら配色を決定する。(30分)

全体で本時の学習を振り返り、発表する。(5分)

## 発問や指示

前回、自分の作品で使いたい色を決めました。何名かに理由を踏まえて発表してもらいたと思います。

〈主発問〉

配色を考えたとき、大切にするのは使う色の種類だけ？

スカイメニューの写真ツールを使って作品の写真を撮り、ペイント3Dのバケツツールを使って配色をしてみましょう。

配色が決まった人はアイデアを紹介してください。理由をみんなにわかるように発表しましょう。

## UDの手立て

### 【視覚化①】

日本の風景・文化をスクリーンに映し、配色のイメージを持てるようにする。

### 【焦点化】

発問の仕方を工夫し、ねらいが明確になるよう仕向ける。

### 【視覚化②】

生徒の計画した作品をタブレット親機を使って全体へ紹介する。

### 【共有化】

本時のまとめを全体で行うことで、学びの共有化をはかる。